

スリランカにおける実践知の共同探究と国際的な示唆

2023年11月2日にスリランカの国立社会開発機関(NISD)とソーシャルワーカー協会(SLAPSW)との共催により、ソーシャルワーク実践の視点とスキルの探求に関する会議¹をNISDにて開催しました。目的は、これまで十分に記録されていないソーシャルワーク関連の実践家の経験を共有し、あらたな実践知とその国際的な示唆を探索することでした。40名程度が現地参加し、25名程度が一部遠隔参加しました。NISDよりM.アショカ博士の進行のもと、S.アッターナヤケ所長代理の開会挨拶と、戸塚所長によるメッセージの後に、SLAPSWのA.ラナウィーラ元会長とアッターナヤケ所長代理による基調講演が行われました。その後、2つの分科会にて合計11演題の個別発表が行われました。午後には、ラナウィーラ元会長と東田研究員のファシリテーションにより、ソーシャルワーク実践家を主な対象とした実践知に関する対話セッションを実施しました。本会議の知見には主流のソーシャルワーク言説とは異なりうる国際的な示唆も含まれており、今後関係者とともに文書を取りまとめていく予定です。



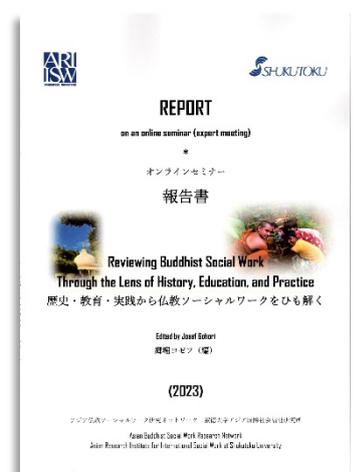
発表者等との会議後集合写真

仏教ソーシャルワークの報告書および短報

2023年1月25日に開催されたオンラインセミナー「歴史・教育・実践から仏教ソーシャルワークをひも解く」報告書²が発刊されました。本研究活動は、「アジアのソーシャルワークにおける仏教の可能性に関する総合的研究」(2015～2019年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業)がきっかけとなっており、その体系化を目指す一環として行われました。将来的には各国の僧侶、寺院、組織が提供する活動の歴史、実践、教育に焦点を当てた研究が必要です。今回の報告書はいち早く研究成果の取りまとめを試みたスリランカからの発表により構成されています。

さらに、アジアの仏教ソーシャルワークに関する研究知見が国際誌に短報として掲載³されました。ご覧いただけると幸いです。

- ◆アジア国際社会福祉研究所のニュースは当研究所のホームページよりご覧いただけます。
<https://www.shukutoku.ac.jp/university/facilities/asiancenter/>
- ◆淑徳大学内ではSナビにて月1回程度配布されます。



¹ 本研究は科研費 JP21KK0039、JP21K13477 の支援を受けています。

² リンクより無料ダウンロード可 <https://drive.google.com/drive/folders/1PxmdRdkWMYb-UdzsvFLDfdxwZJhq7Kke?usp=sharing>

³ <https://doi.org/10.1111/aswp.12298>